

自給飼料生産の復活に向けて、京丹波町で刈取実証調査を実施

飼料価格高騰対策の一つとして自給飼料生産が奨励されていますが、機械、労働力の乏しい畜産農家ではなかなか踏み込んでいけないのが現状です。

京丹波町では、南丹広域振興局の支援により酪農家が耕作放棄田2ヘクタールにトウモロコシと飼料イネを栽培し、当所が細断型ロールベラー等の刈取調製機械を現地へ持ち込み、刈取実証調査を実施しました。

土地条件別の作業効率や生産費の調査に併せて酪農家へのアンケート調査も行い、自給飼料作付けの意識向上を目指しています。



作業機械の運搬



酪農家によるロールベラーの運搬



当センターの作業機械による刈取調製